



14 超重症児の手術件数

解説	超重症児とは、食事摂取機能の低下や栄養吸収不良などの消化器症状、呼吸機能の低下のために濃密な治療を必要とする小児です。超重症児の手術は健康な小児の手術に比べ、より高度な医療技術と治療体制が必要です。熟練した小児外科医や麻酔科医の配置が必要ですので、小児医療の質の高さを表す指標となります。												
実績	<table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>手術件数 (件)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成25年度</td><td>67</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>47</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>61</td></tr><tr><td>平成28年度</td><td>48</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>46</td></tr></tbody></table>	年度	手術件数 (件)	平成25年度	67	平成26年度	47	平成27年度	61	平成28年度	48	平成29年度	46
年度	手術件数 (件)												
平成25年度	67												
平成26年度	47												
平成27年度	61												
平成28年度	48												
平成29年度	46												
定義	「A212-1-イ超重症児入院診療加算」及び、「A212-2-イ準重症児入院診療加算」を算定した患者の手術件数(医科診療報酬点数表区分番号K920,K923,K924(輸血関連)以外の手術)です。												